

令和8年度第1回岡山市女性活躍推進協議会要旨

- 1 日 時 令和8年7月6日(月)午後3時00分～午後4時30分
- 2 場 所 岡山市役所議会棟3階 第1会議室
- 3 出席委員 万代氏(香山委員代理)、櫻井委員、橋本委員、
日高委員、福田委員、藤原委員、頼定委員
- 4 出席職員 女性が輝くまちづくり推進課 大下課長、川上課長補佐、高畑副主査
- 5 傍 聴 者 なし
- 6 議 事
 - 1(1) 座長、副座長の選任について
 - (2) 令和8年度女性活躍推進に関する取組・事業について
 - (3) 第6次さんかくプランの策定について
 - 2 その他
- 7 配付資料
 - 資料1 岡山市女性活躍推進協議会名簿
 - 資料2 岡山市女性活躍推進協議会設置規約
 - 資料3 令和8年度女性活躍推進に関する取組・事業
 - 資料4 第5次さんかくプラン成果指標の進捗状況
 - 資料5 第6次さんかくプランに向けた課題
 - 資料6 さんかくプラン新旧対照表(案)
 - (参考資料)男女共同参画に関する市民意識・実態調査、
女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する企業調査 概要版
第5次さんかくプラン冊子
(岡山県より)令和8年度岡山県男性育児休業取得促進奨励金制度概要チラシ
・セミナーチラシ
- 8 会議の状況

議事1(1)座長、副座長の選任について

岡山市女性活躍推進協議会設置規約第4条第1項の規定に基づき、座長に藤原委員、副座長に日高委員を選任。

議事1(2)令和8年度女性活躍推進に関する取組・事業について

【岡山県】

(女性活躍推進事業)

- ・企業で働く女性を応援するキャリアアップ講座として、企業等で働く女性に対して、キャリア意欲の向上やネットワーク構築等を支援するため、リーダー候補向け・管理職向けの連続講座や交流会を実施予定。
- ・企業等での女性の育成・登用をテーマに、経営層向けのシンポジウムを今年度から開催。11月4日に開催予定。
- ・大学生のキャリアデザイン講座について、昨年度は川崎医療福祉大学、岡山県立大学、美作大学で開催。今年度は、岡山大学と山陽学園大学を追加し、5大学で10月～2月頃開催予定。
- ・女性のキャリア形成応援事業と女性活躍推進員の配置・啓発事業はウィズセンターでの事業。女性活躍推進員による啓発事業について、昨年度は市町村で出前講座を35

回実施し、1690名受講された。今年度も引き続き実施予定。

（男性育児休業取得等促進事業）

・企業に対する奨励金事業とその受給要件となる経営者向けセミナー、優良事例の横展開事業を実施する予定。昨年度の経営者向けセミナーは、468の企業から526名受講された。

【連合岡山東部地域協議会 岡山地域連絡会】

・女性委員会の取組として、ふれあいメーカーにて女性委員会の取り組みをパネルで紹介し、パンを販売しながらバラのコサージュを提供した。

・6月9日～10日に実施した「女性のための連合全国一斉集中労働相談ホットライン」では、2日間で21件の相談があり、そのうち15件が女性からの相談であった。また、介護職の方の相談が多かった。

・6月13日に「パートナーシップフォーラム」を開催した。その中で、来年には統一地方選挙があり、女性の立候補者が少ない現状を踏まえ、模擬投票等を行った。

【ちゅうぎんフィナンシャルグループ】

・第3期女性未来塾について、次世代リーダーの育成を目的に、女性の主任層、上級職層を対象に、1年間を通してマインドを中心とした外部講師による研修を行う。受講者からは、今までは上を目指すつもりはなかったが私も目指したい気持ちになった等の意見があり、引き続き実施予定。

・毎年7月第2金曜日に、所属長全員を対象とし、今年度は「イクボス」をテーマに外部講師によるD&Iフォーラムを対面開催。Zoomを使用し、誰でも参加可能としている。

・男性育休の取得については、平均20日を超えてきている。引き続き、分割取得や上司の意識づけをし、女性と同様に取得できるように働きかけていく。

【岡山市】

・きらりと認証について、令和8年3月31日時点で149社の認証。令和7年度の新規認証は19件であった。引き続き、認証制度の認知向上を図る。

・女性活躍に向けたトータルサポート事業について、現在協議中ではあるが、対面でのセミナー2種類と、個別相談を受ける体制をとる予定である。女性のためのデジタル人材育成および就労支援事業では、Excel関数やノーコードアプリを学ぶ講座を開催すると同時に、個別相談やマッチング等を通じ、希望する形で就労できるよう一貫した支援を実施。

・女性起業家育成支援事業は令和7年度から開始したが、参加者から好評だったため、今年度も新たな内容・講師でセミナー等実施予定。

・今年度も就実大学（7月15日開催）、ノートルダム清心女子大学（秋頃開催予定）で大学生のためのキャリア形成応援事業を実施。

・令和8年4月1日に「岡山市特定事業主行動計画」を改定。誰もがそれぞれのライフステージで力を発揮できる市役所の実現を目的とし、5つの数値目標を定めている。

【NPO 法人輝くママ支援ネットワークぱらママ】

・女性を対象とした体験型イベントを5月16日に開催。我慢しない1日を過ごすため、女性の健康課題等を解決・相談できるブースを開き、女性に体験してもらった。好評のため、第2回目の開催に向けて準備を進めていく。

・市民協働事業としては、前期と後期の年2回、女性の健康課題についてのセミナーを開催。

・健康経営優良法人の取得のサポートをしているなかで、女性の健康課題についてどのような取組をしたらいいかわからない、当事者の女性自身のヘルスリテラシーが低いなどの課題が見えてくる。

【就実学園】

- ・一般事業主行動計画の目標1について、昨年度の実績は43.8%。目標2については昨年度から本格的に取り組んでいるため、今年度以降成果が出ると考えている。
- ・「子育て応援アカデミー」として、教育学部を中心に「親子ふれあいタイム」を月1回開催し、未就学児と保護者が参加。最近は父親の参加が増えている印象。

【岡山商工会議所】

- ・創業スクールは平成17年度から毎年開催しており、今年度は全5回開催。創業に関する基礎知識の習得やビジネスプランの発表会を予定。近年女性の参加者が増えており、今回の参加者26人中17人が女性。

<主な意見、質問等>

- ・女性活躍推進は産学官一体で取り組むことにより効果が出ると思う。仕事をしながら育児をするという意識が女性側にあっても、パートナーの職場が昭和の働き方だと女性活躍推進は実現できない。また、女性なら料理くらいできたほうがいい、女性は長く働かない等の価値観をもった学生もいるので、産学官が連携して取り組んでいくことが有効だと思う。
- ・女性の再就職支援をしている立場からみると、昔と比べたらすごく働きやすくなっているため、働き続けるかどうかは女性の意識の部分も影響している。教育や両親・祖父母の姿を見て、働くことに対しての意識は形成されると思う。
- ・男女ともに働きやすさの面では整ってきている。また、若い世代では男女関係なくという意識が根付いているように感じる。女性管理職比率についての課題は、今までの性別での職務経験が関係していることもあるため、ここ数年を乗り越えると変わってくると思う。
- ・市内中小企業の多くが男性の多い製造業であり、女性を受け入れる職場環境が整っていない企業もある。人手不足が深刻化していく中、女性に活躍してもらうために職場環境の整備が必要であることを伝えている。男性育休の取得は進んでいるようだが、残った人の業務負担等については問題提起がなされているのが現状である。こちらも環境整備が必要と思われる。また、例えば、子育て中のシングルマザーの方は、時間等の制約があり就きたい仕事に就くことができない、資格を取るためのスクールに通いたくても条件があわない、支援を受けるためには何度も相談に行かないといけないなど、さまざまなハードルがある。そういった若い女性もどんどん活躍できるような支援が必要だと感じている。
- ・大学生が就職先を決めるとき、親の意見を参考にしていることが多いと聞いたので、親世代に対しても、女性活躍や性別役割分担意識の解消について訴えかける方法を模索している。
- ・製造業での職場環境整備が必要とのことだが、実際、工業高校では女性が増えてきており、専門分野での人材育成が進んでいる印象を受けたので、職場環境整備は本当に必要だと思う。女性が働きやすい職場環境整備に対しての国や県からの助成制度について、内容の幅を広げたり、より周知をしていただきたい。また、育児休業を取得した際のバックアップ体制は、今後重要になってくる。誰でも対応できるようなマニュアル化や、休む人だけでなく周りの人への助成制度等のメリットを充実させて、そのうえで普及させていく必要があると感じている。

議事1(3) 第6次さんかくプランの策定について

資料4～6について事務局から説明。

<主な意見、質問等>

- ・生涯を通じた健康支援を柱Ⅱ（安心して暮らせる社会）から柱Ⅰ（性別等にかかわら

ず、人権や個人の生き方が尊重される社会)に変更した理由は。

→内閣府の第6次男女共同参画基本計画では、女性だけでなく男性も含めて、「ウェルビーイング」として重視しており、健康課題は個人だけの問題ではなく、社会全体としての問題として捉えられている。個人の生き方を尊重し、包括的な支援を実施するため、柱Ⅰがふさわしいと考えている。

→内閣府の骨太方針では、女性活躍推進の中で健康課題に取り組むべきと示しているが、体系(案)の柱Ⅲでは健康という言葉に触れていないのはどうしてか。

→第6次さんかくプランは5年間の計画になるため、基本的には第6次男女共同参画基本計画を参考にしつつ、骨太方針も把握しながら進めていく。体系(案)は資料6のとおりだが、基本目標や施策は複雑に絡み合っている(柱Ⅲにも関係がある)ため、具体的な施策や事業の部分で、それぞれ必要な内容を記載していくこととなる。ご意見を踏まえて検討させていただく。

→健康課題については、言葉で明記していただきたい。

・「アンコンシャス・バイアスへの気づき」は非常に難しいと思う。50代以上の世代は固定的な性別役割分担意識がまだ残っていて、その子どももそのような意識を持ってしまう。最近のカスハラ対策では、あらゆる場所でポスター等を見かけることにより、みんなが意識しはじめている。「アンコンシャス・バイアスへの気づき」も、気運を高めていく施策が必要である。

→企業の意識も変わらないと、就職してもらえず、地元にそのような企業がないと、若い世代は大都市圏に行ってしまう。社会の流れからも、変わらないといけないのだが、いろんな方法で周知をし、啓発し続けるしかないのかなと思う。

→アンコンシャス・バイアスだからそもそも気づいていない。積極的に気づかせる活動も必要だと思う。

・今後のプラン策定に関するスケジュールは。

→岡山市男女共同参画専門委員会を中心とし、この協議会や庁内、議会等の意見照会をしながら進めていく。次回会議で、素案をお示しし、第3回会議で最終案をお示しする予定。

その他

・次回会議は11月の予定。